

App Bridge Windows Agent  
プロキシ設定ガイド

Ver. 1.17.1

## 目次

<b>1. 本書の役割</b> .....	<b>1</b>
<b>2. プロキシサーバ設定画面</b> .....	<b>2</b>
2.1 プロキシ情報の設定 .....	2
2.2 プロキシ設定画面の表示方法 .....	2
<b>3. プロキシサーバ情報の設定</b> .....	<b>3</b>
3.1 プロキシサーバを使用しない場合 .....	3
3.2 プロキシサーバを手動指定する場合 .....	3
3.3 プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合.....	3
3.4 プロキシサーバを PAC ファイルで決定する場合.....	3
<b>4. 認証情報の設定</b> .....	<b>4</b>
4.1 プロキシサーバが認証を必要としない場合.....	4
4.2 プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合.....	4
4.3 プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合.....	4
<b>5. Internet Explorer から引き継がれる設定情報</b> .....	<b>5</b>
5.1 引き継がれる設定 .....	5
5.2 Internet Explorer 設定情報の優先順位 .....	5
5.3 プロキシサーバの自動検出動作 .....	5
5.4 WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service .....	6
5.5 .NET Framework による Internet Explorer 設定のキャッシュ .....	6
5.6 サービスログオンアカウントの変更 .....	6
<b>6. サービスログオンアカウントの変更方法</b> .....	<b>7</b>

## 1. 本書の役割

本書は、App Bridge Monitor、App Bridge Kicker、App Bridge Transporter の Windows Agent に対するプロキシ設定方法について説明するものです。

## 2. プロキシサーバ設定画面

### 2.1 プロキシ情報の設定

App Bridge センタへの HTTPS アクセスにプロキシサーバを経由する場合、プロキシ設定画面を表示し、プロキシ情報を設定して下さい。設定された内容は保存され、App Bridge Windows Agent の全サービスで使用されます。

The screenshot shows a 'Web Proxy Settings' dialog box. It has a title bar 'Web Proxy Settings'. The main area contains several sections:   
- A section with two checked checkboxes: 'Use Proxy Server' and 'Use Proxy Server Settings'.   
- A section titled 'Proxy Server Settings' containing two text input fields: 'Proxy Server FQDN' (empty) and 'Proxy Server Port #' (containing '80').   
- A section with two checkboxes: 'Use Proxy Server Default Credential' (unchecked) and 'Use Proxy Server Clear Text Credential' (checked).   
- A section titled 'Clear Text Credential' containing three text input fields: 'User CD' (empty), 'Password' (filled with 12 dots), and 'Domain' (empty).   
At the bottom of the dialog are 'OK' and 'Cancel' buttons.

設定に必要な各種情報については、該当ネットワークの管理者にご確認下さい。

### 2.2 プロキシ設定画面の表示方法

プロキシ設定画面の表示方法を以下に示します。

App Bridge サービス	プロキシ設定画面の表示方法	
App Bridge Monitor	スタートメニューから「App Bridge Monitor」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Setting」-「Proxy...」を選択します	
App Bridge Kicker	スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「File」-「Proxy...」を選択します	
App Bridge Transporter	スタートメニューから [App Bridge API]→[API Configuration] を選択し、表示された画面で [Proxy] ボタンをクリックします	

### 3. プロキシサーバ情報の設定

HTTPS アクセスにプロキシサーバを使用するか、使用する場合プロキシサーバ情報をどこから取得するかを設定します。

プロキシサーバ情報	Use Proxy Server	Use Proxy Server Setting
プロキシサーバを使用しない	チェックオフ	—
プロキシサーバを手動設定する	チェックオン	チェックオン
IE 設定情報から引き継ぐ	チェックオン	チェックオフ

#### 3.1 プロキシサーバを使用しない場合

プロキシサーバを使用しない場合は「Use Proxy Server」をチェックオフとして下さい。

#### 3.2 プロキシサーバを手動指定する場合

使用するプロキシサーバを手動で指定する場合は、「Use Proxy Server」をチェックオン、「Use Proxy Server Setting」をチェックオンとし、「Proxy Server Setting」にプロキシサーバの FQDN（または IP アドレス）とポート番号を設定して下さい。

#### 3.3 プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合

使用するプロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合は、「Use Proxy Server」をチェックオン、「Use Proxy Server Setting」をチェックオフとして下さい。

本設定による効果、注意点については後述の「Internet Explorer から引き継がれる設定情報」をご一読下さい。

プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ機能は、.NET Framework が提供するものであり、Windows、IE、.NET Framework のバージョン及び利用環境により、引継ぎ情報が異なる場合があります。このため、App Bridge としては、本設定を非推奨としており、可能な限り、プロキシサーバの手動指定をご利用下さい。

#### 3.4 プロキシサーバを PAC ファイルで決定する場合

PAC ファイルには直接対応していません。使用するプロキシサーバを PAC ファイルで決定したい場合には、IE 設定情報に PAC ファイルを設定し、前項に従って IE 設定情報を引き継いで下さい。

## 4. 認証情報の設定

プロキシサーバを使用する場合、プロキシサーバが要求する認証情報を設定します。

プロキシサーバの認証方式	Use Proxy Server Default Credential	Use Proxy Server Clear Text Credential
認証不要	チェックオフ	チェックオフ
クリアテキスト認証	チェックオフ	チェックオン
Windows 統合認証	チェックオン	チェックオフ

### 4.1 プロキシサーバが認証を必要としない場合

プロキシサーバが認証を必要としない場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオフ、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオフとして下さい。

### 4.2 プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合

プロキシサーバがクリアテキスト認証を必要とする場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオフ、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオンとし、「Clear Text Credential」の各種情報（ユーザ ID、パスワード、ドメイン）を設定して下さい。

### 4.3 プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合

プロキシサーバが Windows 統合認証を必要とする場合は、「Use Proxy Server Default Credential」をチェックオン、「Use Proxy Server Clear Text Credential」をチェックオフとして下さい。

Windows 統合認証とは、現在 Windows にログインしているアカウントで認証するものです。このため App Bridge Monitor の各サービスで Windows 統合認証を使用する場合、サービスログオンアカウント情報を変更する必要があります。サービスログオンアカウントの変更方法は、後述の「サービスログオンアカウントの変更方法」をご参照下さい。

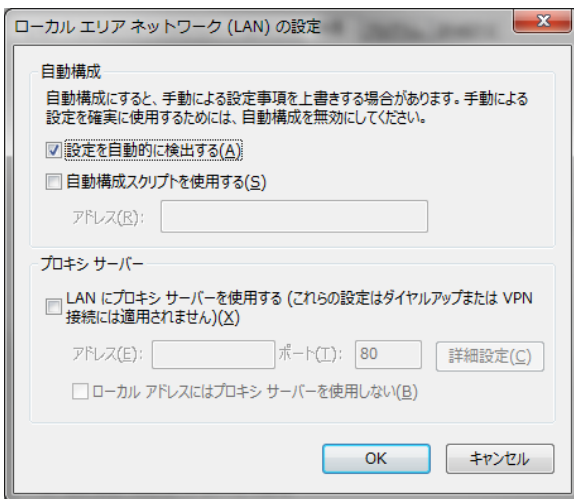
## 5. Internet Explorer から引き継がれる設定情報

Internet Explorer（以下 IE）から引き継がれる設定情報を参考情報として掲載します。掲載した内容は、調査時点の Windows、IE、.NET Framework の動作を示すものであり、当社で内容を保証するものではありません。予めご了承下さい。

プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ機能は、.NET Framework が提供するものであり、Windows、IE、.NET Framework のバージョン及び利用環境により、引継ぎ情報が異なる場合があります。このため、App Bridge Monitor としては、本設定を非推奨としています。可能な限り、プロキシサーバの手動指定をご利用下さい。

### 5.1 引き継がれる設定

IE 設定情報から引き継がれるプロキシサーバ情報は、下記の「ローカルエリアネットワークの設定」で設定される全ての項目です。



### 5.2 Internet Explorer 設定情報の優先順位

IE 設定で、複数の項目をチェックオンとした場合、「設定を自動的に検出する」→「自動構成スクリプトを使用する」→「LAN にプロキシサーバを使用する」の順で評価されます。

### 5.3 プロキシサーバの自動検出動作

「設定を自動的に検出する」の動作は以下のとおりです。

- ① DHCP サーバから自動構成スクリプトが格納されている URL の取得を試みます
- ② ①に失敗すると“wpad”というホスト名を DNS へ問い合わせ、“/wpad.dat”というファイルの取得を試みます
- ③ ②に失敗すると“wpad”というホスト名を NetBIOS 名で検索し、“/wpad.dat”というファイルの取得を試みます

※

一連の自動検出動作では、複数のネットワークアクセスが発生します。このため、プロキシサーバの自動検出を不用意に実行させるとパフォーマンスに影響する可能性があります。

## 5.4 WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service

「設定を自動的に検出する」及び「自動構成スクリプトを使用する」は、Windows にインストールされている「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が実行し、結果をキャッシュします。

キャッシュは「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が起動している間保持され続けます。例えば、「自動構成スクリプトを使用する」をチェックし、PAC ファイルの URL を設定していた場合、PAC ファイルの内容を変更しても、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」が起動している間は内容が反映されません。PAC ファイルの変更を反映するためには、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」を再起動する必要があります。

なお、これらのキャッシュ動作は、「WinHTTP Proxy Auto-Discovery Service」を起動しない（サービススタートアップの種類を無効に変更）することで無効化できます。しかし、この設定は OS 全体に影響し、パフォーマンスに影響する点を考慮して下さい。

## 5.5 .NET Framework による Internet Explorer 設定のキャッシュ

.NET Framework は、IE 設定情報から取得した内容をプロセスごとにキャッシュします。IE 設定情報からの情報取得及びキャッシュは、プロセス起動後、任意のタイミングで実施されます。

このため、IE 設定情報の変更を App Bridge Monitor Agent に反映したい場合、Service Control を使用し、App Bridge Monitor の全サービスを再起動する必要があります。

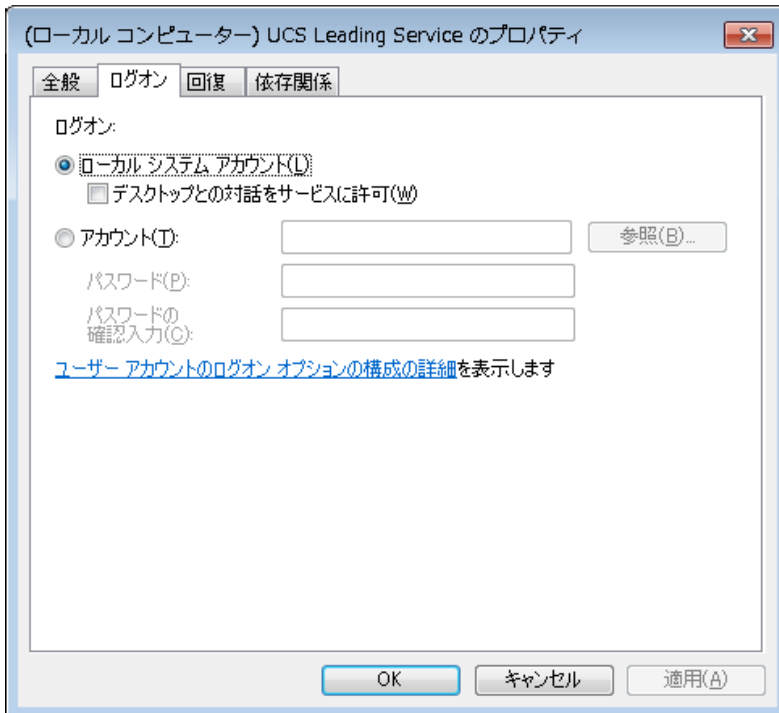
## 5.6 サービスログオンアカウントの変更

IE 設定は Windows にログオンしているアカウントのユーザ情報として保存される点に注意して下さい。このため、プロキシサーバを IE 設定情報から引き継ぐ場合、App Bridge Monitor の各サービスでサービスログオンアカウントを変更する必要があります。サービスログオンアカウントの変更方法は、後述の「サービスログオンアカウントの変更方法」をご参照下さい。

## 6. サービスログオンアカウントの変更方法

IE 設定情報の引継ぎ、Windows 統合認証の対応を実施する場合、App Bridge Monitor Agent のサービスログオンアカウントを変更する必要があります。

Windows サービスの実行アカウントを変更するためには、管理ツールのサービスで対象のサービスを選択し、ログオンタブの設定を変更します。



変更対象のサービスは以下のとおりです。

- UCS Agent Service
- UCS Condition Service
- UCS Leading Service
- UCS Watch Service

なお、App Bridge Monitor Windows Agent は実行に管理者権限を必要とするため、指定するアカウントを Administrators グループに所属させる必要があります。